

(様式4a 号)

患者さんおよび患者さんのご家族の方へ

このたび当院では、以下の臨床研究を、滋賀県立総合病院倫理委員会の承認を受け、かつ病院長の許可のもと実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

本研究の対象者に該当する可能性がある方やそのご家族の方で、ご質問がある場合、またはこの研究への参加を希望されない場合は、下記の担当者までご連絡ください。なお、本研究への協力を拒否されても、今後の治療を受けるうえで不利益が生じることはございません。

【研究課題名】

頸動脈プラークスコアの新しい評価法と重症度分類に関して

1. 研究の意義・目的

頸動脈プラークスコアとは、首の血管(頸動脈)にできた動脈硬化の厚みを超音波検査で調べて数値化したものです。動脈硬化が進むと、血管の壁が厚くなったり、一部が盛り上がってきます。これを「プラーク」と呼びます。プラークスコアは、首の左右の血管に見られるこうした変化を合計し、**動脈硬化の程度をわかりやすく表す指標**です。

したがって、このスコアを用いることで、頸動脈の動脈硬化が**軽いのか、進んでいるのか**を客観的に評価することが出来ます。

本研究では、これまで用いられてきた評価方法と、新しく簡便に測定出来る方法を比較し、**より日常診療で使いやすい評価法**を検討します。

なお、本研究で用いる情報は、通常の診療で行われた頸動脈超音波検査の結果です。

研究のために新たな採血や追加の検査を行うことはありません。

2. 研究方法

超音波装置(Aplio i900 限定)にて、両側頸動脈のプラークを計測する。

従来法:頸動脈分岐部を基準として、分岐部より末梢側 15 mm および中枢側 45 mm の範囲を長軸像で評価し、この区間に認められる 1.1 mm 以上の局所壁肥厚の左右の総和をプラークスコアとする。

新評価法:内頸動脈を S1, 分岐部を S2, 総頸動脈を S3 と定義し、この区間に認められる 1.1 mm 以上の局所壁肥厚の左右の総和をプラークスコアとする。

これは研究に関係なく通常のルーチンでも計測しています。

測定者は、エコーセンター技師 2 名で行います。

※この2名は、日本脳神経超音波検査と栓子検出学会 認定脳神経超音波検査士を取得している者になります。対象となる方はボランティアではなく、当院にて日常臨床で頸動脈エコー検査を受けた患者とします。

3. 利用する試料・情報

研究方法にて解説しています。

4. 研究期間

2026 年6月16日～2026 年12月末日まで

5. 個人情報の取扱い

本研究では個人情報の保護に十分配慮し、患者の氏名や ID などの個人情報や使用しません。計測したデータの取り扱い時、各対象者には管理 ID を付与し、匿名化した状態でデータを取り扱います。また、学会や論文などで結果を発表する場合でも、個人が特定されることはありません。

6. 費用および謝金等

なし

7. お問い合わせ先

臨床検査部エコーセンター(内線:4226)

連絡時間:15 時～16 時半

鮎川 宏之